

保育カンファレンスにおける進行係の役割

～進行係としての主任保育士の会話に着目して～

若林紀乃

(広島大学大学院教育学研究科)

問題と目的

近年、保育士の資質を向上させ、保育実践を改善するものとして、保育カンファレンスの重要性が注目されている。保育カンファレンスは、保育士が他の保育士と話し合い、自らの保育観を振り返り、保育実践を改めていくことにその利点がある。ただし、カンファレンスが有効に機能しなければ、ただの雑談、事実確認、指導の場に終わってしまうこともある。従来の研究から、カンファレンスが有効に機能するための要因として、発言の対等性、話の具体性、実践との循環性といったものがあげられる(例えば、田代, 1995)。しかし、単なる雑談としてカンファレンスが進まないためには、さらに進行係の役割が重要になってくるだろう。例えば、まだ信頼関係が確立されていない各年度の初期段階であってもより迅速にかつ有効的なものとして保育カンファレンスが機能するためには、保育をよく知るものが進行係として存在することも必要なことであると考えられる。実際、多くの保育現場においてカンファレンスの進行係は主に園長や主任といった管理職の保育士が担当している。ただし、これら管理職の保育士は、指導的になりやすく「発言の対等性」を欠くおそれがある。しかし、経験を積んだ専門家である管理職の保育士からの情報は、保育実践の改善に有効な場合も多々ある。このような、管理職の保育士が進行係を務めている現状があること、そこには利点もあることを踏まえると、進行係に関する具体的方法論を確立する必要があると考えられる。そこで、本研究では、進行係として保育カンファレンスに参加する管理職の保育士が果たす役割を、メンターとファシリテーターの2種類に分け、会話内容による役割の使い分け方から、会話内容に応じた進行のあり方を探る。

方法

研究協力園

私立保育園 1 園(乳児 4 クラス, 年少児 3 クラス, 年中児 2 クラス, 年長児 2 クラス)。自由保育形態を主としている。研究協力園では、月一回、学年ごとの保育カンファレンスを実施している。カンファレンスメンバーは、園長、教務主任といった管理職の保育士

1～2名、クラス担任および副担任である。進行係は主に教務主任が務める。カンファレンスは、各保育士が各月における保育の様子や子どもの様子を、題目を決めずに自由に話す形態をとっている。

対象資料

カンファレンスレコードは、2002年11月～2003年12月まで計17回のカンファレンス内容である。カンファレンス後の保育実践を観察する関係上、今回は幼児クラスのカンファレンスに限定した。

カンファレンスレコードの中で特に進行係と担任保育士のやりとりが活発であったものを分析対象とした。

資料の整理と分析

- ①対象資料を各会話ごとにカードに書きおこした。
- ②それぞれの会話の中の進行係の会話を次のような定義にそってメンター、ファシリテーターに分類した。
メンターの役割：情報提供などによる支援や、目標達成のための励ましの役割を担う(野口, 2001)
ファシリテーターの役割：メンバーと同等の対場で会話を促進する(畠瀬, 1992)
- ③それぞれの会話を、観察資料と照らし合わせ、カンファレンス後保育実践に結びついたり、次の月保育実践改善の話題がでたものを成功例、保育実践に結びつかなかったり、次の月も繰り返し悩みがでたものを失敗例として分類した。
- ④成功例、失敗例ごとに、進行係の役割がどのように機能していたのかを検討した。

結果

以下、具体的な保育カンファレンスにおける会話事例を示す。紙面の都合上、会話事例は簡略化し記載されている。会話事例中の下線部は進行係である教務主任のメンターの役割としての会話を指し、波線部はファシリテーターの役割としての会話を指す。

メンターとしての役割を果たす場合(成功例)

話題 [保育における物理的環境について]

保育士 A: (子どもたちの自立を促す保育を心がけていた。最近、保育環境を整えることで自発性ができたので、さらにレベルを上げていきたい様子) 片づけの時、一緒にしてあげると種類ごとに分けて片づけるこ

とができるんです。絵を貼って環境を整えていくと、自分から分けて箱に入れるし。でも絵が小さいと絵と物が同じということがわかりにくいこともあるような・・・、何かいい方法はないですか・・・

教務主任：老人のように、小さい絵だと見えにくくて分からないというのではなく、「量の認知」という意味で、おもちゃの大きさと絵の大きさが近い方が、それに対比するおもちゃのことを思い起こしやすいということもあるのかもしれないですね。

その後の実践：保育士Aはカンファレンス後絵の大きさを変え、子どもたちの自発的な片付けを促進させた。

メンターがカンファレンスの妨害となる場合(失敗例)

話題【保育における人的環境について】

保育士B：Kくんがお集まりの時リズムなどになると自分からしないと言い出すのですが・・・

教務主任：自意識が強く、自分に自信がないのかな？
自信が持てる経験がたくさんできるといいですね。

保育士B：それにRくん、Sくんは絵本を聞こうとしていないんです・・・

教務主任：Sくんは絵本経験が少ないのでしょうか。(…省略…) 保護者に本を読んでやってほしいことを伝えたり、保育士も手分けして個人的に読んでやってはどうでしょうか？

一次の月のカンファレンスー

保育士B：Kくん、Nくんたちがお集まりに参加しません。Sくん、Rくん、Nくんが落ち着かず、お集まりの途中でいきなりオルガンのスイッチを入れて弾いたり、(…省略…) 雨の日などは途中で流れを止めなければならない位ひどい時もあります。(…省略…) 今はプールなどの発散する遊びがあるけど・・・

教務主任：聞いていてこの状況を保護者に知ってほしいという感じがします。もし必要ならばクラス懇談をしてもいいのですが？頻度はどうですか？

保育士B：そんなに頻繁という感じでは・・・

教務主任：それならば、クラス懇談を開かなければいけないという状況ではないのですね？

保育士B：そう思います。

その後の実践：保育士Bはお集まりで叱ることが続き、少し疲れを感じている様子である。

ファシリテーターとメンターを兼ねた場合(成功例)

話題【保育方法について】

保育士C：製作があまり盛んにならないんです。落ち着いている子が少しやっているだけで・・・

教務主任：(うなづいて聞く。他の保育士を見る。)

保育士D：保育士がついてあげて、大きい模造紙と

かで自分達が乗れそうなボート作ったりできましたよ。

教務主任：思いもよらないものができる、そんな製作が必要なかしら？(他の保育士を見る。)

保育士E：私は製作も片付けも子どもがやりやすい環境を作っているんです。片付けの時材料の残りに関しても後で使えるかどうか話をしたり・・・

教務主任：残り物の工夫も一つ的环境設定なのね。

保育士C：(しばらく考えて)環境が作れないというよりも、私自身製作とかに楽しみをそれほど見出せないのかもしれない。(楽しめない自分についての話が続き、子どもと一緒に楽しんでみることに・・・)

一次の月のカンファレンスー

保育士C：製作について材料をいろいろ準備したり積極的に取り組んでいます。今、製作がとても盛り上がっているんです。木の実なども使って(…省略…)子どもたちのいろいろな発想がおもしろいですね。

ーさらに次の月のカンファレンスー

(さらに他の先生達と製作について盛り上がる)

保育士C：製作が盛り上がったおかげで、プレゼント作りも楽しかったですね。いろいろな材料があつて。

保育士D：来年のプレゼント作りにむけて編物なんかもしてみましょうか。

保育士C：女の子がもくもくとしそうだし、いいプレゼントになりそうですよね。

教務主任：少し思うことなのですが、プレゼント作りのための製作なのでしょうか。何のために製作活動が必要なのか、保育として考える事も重要では？

その後の実践：製作活動の中で各保育士が少しずつ目標を持つ事を意識しはじめた。

考察

以上のように、管理職の保育士が進行係を務める場合、話題が主に物理的環境に関するものであれば、その対処は具体的なものになる場合が多く、メンターとして自分の経験から具体的なアドバイスを提供することも有効な方法であると考えられる。しかし、話題が人的環境や保育内容といったものであった場合、ある人物、ある保育内容にこだわってしまう本来の悩みが隠されていることが考えられる。そういった場合、メンターとして直接情報を提供してしまう前に、ファシリテーターとして周囲の保育士との会話を促進しながら、話題提供者がその話題を持ち出した自分を振り返る機会を与える必要があるだろう。実践に結びつける保育カンファレンスの進行係を務める上で、メンター、ファシリテーター両方の役割を話題によって使い分けることが重要になってくると考えられる。